

日・ASEAN 文化大臣会合における下村文部科学大臣の発言

[議題1. オープニング]

●議長、ありがとうございます。

●今回、第一回の日・ASEAN 文化大臣会合に参加でき、非常に光栄です。この会合の開催に当たり、ホアン・トゥアン・アイン・ベトナム文化スポーツ観光大臣、ASEAN 事務局ほか関係者に対して心からお礼を申し上げます。今回、私は初めての日・ASEAN 文化大臣会合の開催を提案しました。これは、日本にとって重要な ASEAN との文化交流を、昨年交流 40 周年にとどまらず、今後更に飛躍的に前進させていきたいとの私の思いによるものです。今回の日・ASEAN 文化大臣会合をきっかけとして、今後、双方にとって有益で継続性のある協力の土台を形作っていきたくと考えています。

●後ほど、文化芸術分野における日本と ASEAN の協力の議題のセクションにおいて、日本の今後の対 ASEAN 協力の方向性について具体的な提案を行い、皆様と率直な意見交換を行いたいと思います。

[議題6. 文化芸術に関する日・ASEAN の今後の協力]

●議長、ありがとうございます。

(はじめに)

●本題に入る前に1つのエピソードを紹介したいと思います。

一昨年(2012年)12月、文化庁は、東アジアの共生をテーマに東アジアの芸術家、文化人を集めた国際フォーラムを行いました。場所は東日本大震災の被災地である仙台です。そのフォーラムで、日本の和楽器の演奏者が活動先のベトナム、タイで知り合った琴奏者、ジャズ演奏家とジャンルを超えた共同演奏を披露しました。このフォーラムでは、東アジアの芸術家・文化人が、大災害に直面する中で芸術文化が果たす役割について議論していました。それ自体有益な議論ではありましたが、このアジア3か国の演奏は、聴衆に深い共感を与え、また被災地の人々に勇気を与えるものでした。もちろん、アジア各国は文化

や言語が異なり相互理解は容易であるとは限りません。しかし、私たちは、文化芸術が文化や言語が異なる私たちの心をつなぐ大きな力を持っていることを知っており、それを推進すべきであると考えます。

(新たなアジア文化交流政策—文化のWA プロジェクト)

●安倍総理は昨年12月の日・ASEAN特別首脳会議で、「文化のWA（和・環・輪）プロジェクト～知り合うアジア～」と題した新しいアジア文化交流政策を実施する旨発表しました。

「アジアにおいてお互いの固有の文化や伝統を受け入れ、知り合うことにより、この地域は更に大きな力を発揮できると確信している。」

これは、そのときの安倍総理の発言です。相互理解と文化芸術のもつ力をあらかず言葉です。私は日本の文部科学大臣として、日本・ASEAN間のあらゆるレベルで相互理解を深め、アジア地域の文化芸術を一緒に高めていきたいと思えます。

●それでは、具体的にどうするか。次にこれについて述べます。

日本語の「わ(WA)」は平和・調和を表す「和」と円を表す「環・輪」があります。「文化のWAプロジェクト」は、将来に向けてアジア全体に調和と平和の輪をつくり広げていくことに貢献しようというものです。

お手元の配布資料にあるとおり、これは、「芸術文化の双方向の交流事業」と「日本語教育支援事業」の2本柱から成ります。総額300億円程度の事業を、東京オリンピック・パラリンピックが開催される2020年までの期間に集中的に実施していくものです。

●この「文化のWAプロジェクト」の実施のため、今月はじめに国際交流基金の東京本部にアジアセンターが設置されました。芸術文化の双方向の交流事業として、ASEAN各国と意見交換しながら、例えば、芸術家・文化人等1000人以上にフェロシップ等を提供して交流を実施し、ネットワークを強化する。また、演劇・舞踊・美術・映像等の国を超えた共同制作事業などが実施される予定です。

(文部科学省(文化庁)の具体的事業—日・ASEANの相互交流)

●文部科学省（文化庁）も、この「文化の WA プロジェクト」と連携しながら、日・ASEAN の相互交流を強化していきます。今回は、3つの具体的な提案があります。

1つ目は、ASEAN+3 諸国における世界文化遺産や無形文化遺産の国際フォーラムを来年をめぐりに開催すること。日本の持っている遺産保護・修復技術を共有するとともに文化遺産を維持・活用するための方策について話し合います。地域にある文化遺産の活用による地域の再生や観光振興は各国の共通の課題です。

●2つ目は、ASEAN 諸国に重点を置いた文化交流使を派遣すること。日本政府は過去10年間にわたり、日本の芸術家、文化人を一定期間「文化交流使」に指名して、日本文化の紹介活動を行っています。冒頭に紹介した日本の和楽器演奏家は、実は文化交流使としてベトナム、タイ、ラオス、カンボジアで活動しました。芸術家どうしのネットワーク作りにも大きく役立っています。今後は、ASEAN 諸国に派遣する文化交流使の枠を設定し、毎年派遣していきます。また、ASEAN 諸国からも様々な分野の芸術家・文化人を日本にお招きしていきます。

●3つ目は、アジア諸国の美術館・博物館との学芸員交流の促進です。日越友好年であった昨年は九州国立博物館で「大ベトナム」展、本年はじめにはベトナム国立歴史博物館で「日本文化」展を相互に開催しましたが、日本と ASEAN 諸国の学芸員交流を一層促進し、将来的には日本と ASEAN 諸国の美術館・博物館における国際共同展にもつなげていきたいと考えています。

（文部科学省（文化庁）の具体的事業—人材育成）

●私は、文化の WA プロジェクトと連携しながら、更に日本文化の強みを活用して、人材育成を支援していきたいと思います。

具体的には、日本が強みを持つポップカルチャー分野の専門家を ASEAN 諸国の教育機関に派遣するというものです。将来の文化交流の担い手となる若者に対して集中講義などを行う。また、彼らを対象とした訪日研修も検討していきたいと考えます。この提案は、過去の ASEAN+3 大臣会合などで、アニメ分野の人材育成の協力要請があったことに呼応するものです。

(著作権制度の整備に対する支援強化)

●最後に、更に2つの提案があります。

1つ目は、文化振興にとって不可欠の基盤となる著作権制度の整備に対する支援を強化していくことです。海賊版が出回る環境の下では、クリエイターは育ちません。日本政府は、世界知的所有権機関(WIPO)の要請に基づき、1993年より20年以上にわたりASEANを含むアジア地域の著作権制度の整備・普及等を目的とした拠出金事業を実施してきました。これまでアジア地域諸国における著作権法令の整備、集中管理団体の育成などに関するセミナーや研修等を実施しています。引き続き、ASEAN 知的財産権行動計画をふまえ、ASEAN 諸国が実施する著作権制度の改善に役立つセミナー・ワークショップの開催や、著作権の普及啓発などを支援していきます。

(留学生交流の促進)

●2つ目は、留学生交流の促進です。

日本政府にはこの分野でも2020年までの目標があります。海外留学生の受入れを30万人、日本人学生の海外への派遣を12万人にそれぞれ倍増することです。このため、奨学金などの経済的支援の拡充など様々な取組を強力に進めるとともに、昨年12月には、ASEAN 諸国を留学生受入れの重点地域の一つに設定しております。

また、単位の相互認定や成績管理等の質の保証を図りながら、ASEAN 諸国等の大学との学生交流プログラムを開発・実施しています。

今後、日・ASEANの学生交流を一層活発にしていきたいと考えます。

(最後は一進捗状況を着実に点検)

●以上、相互交流の強化、人材育成、著作権制度の整備、留学生交流の4つの項目について提案をしました。

私は、これらの具体的なプロジェクトの実施に当たってASEAN各国と十分な意見交換を行うとともに、進捗状況を点検することが重要と考えます。日本としては、今後開催される日ASEAN文化高級実務会合やASEAN+3文化協力ネットワーク会合(APTCCN)などの機会を使ってASEAN各国と緊密に意見交換していきます。そして今回の日ASEAN文化大臣会合

を最初のステップとして文化分野での日 ASEAN 関係の飛躍的な発展につなげていきたいと思いをします。

●御清聴ありがとうございました。